

石神中学校だより19号

発行日：令和5年 3月 1日

2022重点目標「自ら学び、共に高め合いながら夢の実現のために努力する生徒」文責：校長 佐藤恭司

もうすぐ卒業です～コロナウイルス感染症との3年間～

3月13日に令和4年度卒業証書授与式が行われます。このたび卒業を迎える生徒らは、まさにコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、校内外行事や家庭生活を送ってきました。

入学した2020年(令和2年)5月は、政府の緊急事態宣言解除を受け、3年生の分散登校から始まり全校生徒対象の分散登校に移行していきました。授業や各活動、総合的な学習における校外行事が中止となったり、部活動では、中体連や吹奏楽コンクールなど各大会も中止となるなど、これまで当たり前に行われてきた学校生活が一変しました。1年生時の夏休みは、1学期臨時休校等の影響もあり、授業時数確保のため、8月の2週間でした。



2020年4月6日入学式風景



2020年4月14日給食風景



2020年5月19日分散登校日



2021年6月2日中体連1日目卓球競技



2022年7月17日吹奏楽コンクール



2022年9月29日修学旅行昼食

そのような中でも、徐々に学校生活では、感染対策をしながら、計画的に行事なども実施出来るようになってきました。生徒らの表情も少しずつ笑顔が見られるようになり、友人らと語り合う姿には、ようやく“普通の学校”に戻ってきたのを思い出しました。様々な、不安や悩み、思いとおりに行かない現実との葛藤の中、勉強や部活動、係活動に励んだ3年間でした。一人一人の中学校生活は、どのような3年間だったのでしょうか。卒業証書授与式では、その思いをくみ取れるよう、記憶に残る卒業式にしたいと思います。

バリアフリー化・エレベーター設置工事まもなく完成です



昨年7月から始めましたバリアフリー化・EV設置工事は、3月の各検査を受けて、引渡になります。トイレのスロープや多目的トイレ設置、体育館と技術室へ移動する際の出入り口サッシ、手すり、勾配の少ないスロープ、そして各階移動用のエレベーターなどが作られました。これまで生徒の登下校時の安全確認や送迎時の徐行、そして作業に伴う駐車場など、多くの方々にご迷惑とご協力をいただきありがとうございました。お陰様で工事に伴う事故などはありませんでした。校地内での自家用車運転に際し、引き続き生徒らの交通事故防止のために安全運転にご協力をお願いします。

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的な ガイドライン【概要】 2 令和4年12月 スポーツ庁・文化庁

II 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・ 地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・ 指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業
- ・ 競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・ 休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・ 公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・ 困窮家庭への支援

III 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・ まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
 - ・ 平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ① 市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体に取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
- ※ 地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保
- ・ 令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
 - ・ 都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

IV 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し
- ※ 日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施
- ・ できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
 - ・ 全国大会の在り方の見直し（開催回数の精選、複数の活動を経験したい（生徒等のニーズに対応した機会を設ける等）

ねがい

～我以外皆我師～

われいがい みなわがし

私ごとですが、もう何度、卒業式を経験したことでしょう。自分自身を含めても、一度たりとも同じ卒業式はありませんでした。ある支援学校の三年担任をした時の卒業式では、卒業証書をもらう生徒一人一人の学校生活や今後の進路状況、そして社会自立などが脳裏をよぎり、涙で呼名出来なかったことを思い出します。恥ずかしい経験ですが、それぞれに思い出深いものでした。そもそも卒業式は、教育課程を全て修了したことを認定し、そのお祝いをする式典です。特に日本では、学校教育法施行規則によって定められた学校行事となっています。欧米でも大学の学位授与の式典はありますが、各学校の修了ごとに祝う式典は日本と韓国でのみ見られる習慣といわれています。さて、「我以外皆我師」という言葉をご存じでしょうか。これは、自分以外の人でも物でも皆、自分に何かを教えてくれる先生だという意味です。私たちは、言葉も何も知らない純粋な心の状態で生まれてきます。そして親から、友だちから、先生から、自然などから、いろいろなことを吸収し学んで成長します。在校する生徒の皆さんは、今この瞬間、多くのことを学んでいます。有形無形のたくさんの「わが師の恩」に出会っているのです。その恩との出会いを忘れることなく、また感謝し、卒業や進級してからも「我以外皆我師」を心に秘めて頑張ってください。

